

飯島賢二の『恐縮ですが…一言コラム』

第 472 回 スマホに対抗！「トップレス・ミーティング」

2012.5.13

最近の電車の中は、異様な光景に鳥肌が立つ思いである。

多くの人が携帯電話とにらめっこ、正面を見たり、外を見たり、連れとの会話を楽しんだり…そんな光景はほとんど見なくなった。特にスマートフォン(以下・スマホ)なるものが世の中に出回ってから、こんなシーンが日本の「不気味な常識」になりつつある。

ディーツーコミュニケーションズ(D2C)の調査結果によると、2012 年度「スマートフォンの所有率」は**23.6%**となり、2011 年調査の 7.6%から3倍以上の伸び率で増えている。電車内に限らず、街を歩いたり、会議中にも、あるいはお客様との商談中ですら、スマホを触っているビジネスパーソンによく遭遇する。つい最近まで、携帯＝フィーチャーフォン(ガラケー:ガラケーとは、ガラパゴス・ケータイの略。ガラパゴス・ケータイとは、世界標準とは異なる進化をした日本の携帯電話のこと。)が主力だったから、これは劇的な変化と言える。

会議中でも、携帯端末を手元において操作しているので、上司から、「会議中にスマホの操作は禁止だ」と注意される始末。それでも普段は肌身離さずスマホをもっており、「スマホと付き合っているじゃないの？」とまで言われている、これは実話である。

本人にしてみれば「緊急な、ビジネス的なもの」なのかもしれないが、第三者から見ればそのメールが仕事のものかプライベートのものかまでは判断できない。少なくとも「目の前の会議に注力していない」のは確かであるし、さらには「会議中に遊び、プライベートのメールをしているな」と思われても仕方が無い。

会議中に、ノートパソコンやタブレット端末、スマートフォンを眺めていたり、キーボードをパタパタと叩いたりして、議論の中身に集中できない…会社内でこう感じたことがある人は、案外多いのではないだろうか。

ここに一つの調査データがある。Japan.Internet.Com などが調査した結果によると、社内会議中や取引先との打ち合わせ中におけるパソコン・携帯電話での電子メールの送受信は約**9割**が「好ましくない」と思われていることが明らかになっている。

こうしたIT依存症ともいえる状態に陥った会社を立て直す手立てとして、「トップレス・ミーティング」がいま注目されている。トップレス・ミーティングとは、会議の参加者の集中力を高めて、より深く議論することを狙いに、デジタル機器の持ち込みを禁止した会議。米シリコンバレーが発祥地といわれ、2008 年以降に欧米の多くの会社で導入された。「トップレス」のトップは「ラップトップ」の意味で、会議に持ち込めるのは「紙とペン」だけだ。最近では大学でも教室へのパソコンの持ち込みを禁止しているところもある。

数字の確認などでパソコンが必要な場合には、その前提で準備するが、原則「会議」は顔を合わせ、意見や思いをぶつけ合い、行動への決定を導くとか、そのためにある。Face to Face で、人同士でコミュニケーションする「身のある」会議にするためには、デジタル機器の持ち込みは「避けたほうがよい」かもしれない。日本ではあまりなじみがない「トップレス・ミーティング」だが、ジワジワ増えているようでもあり、我社でも導入してみようかと思っている。